

沖縄キリスト教学院 仲里朝章記念チャペル

# 月曜礼拝

～ 慰霊の日を覚えて平和を祈る時 ～

2021 年度キリスト教活動年間テーマ「世界を見つめ、地域と共に」

Think Globally, Act Locally, Change Personally

「愛によって互いに仕えなさい。」(ガラテヤの信徒への手紙 5:13)

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学

〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地

TEL:098-946-1231(代表)

2021 年 6 月 21 日 (月) 9:50～10:10

司 会：与那嶺琉 (英語コミュニケーション学科学生)

メッセージ：上地武 (日本基督教団首里教会牧師)

平和を祈る時：伊波美智子 (理事長)

奏 楽：仲松あかり (保育科講師)

【前 奏】

【讃 美】 讃美歌21-371 番「このこどもたちが」1、3節

【主の祈り】

天にまします我らの父よ、ねがわくは御名をあげめさせたまえ。  
御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。  
我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、  
我らの罪をも赦したまえ。我らをこころみに会わせず悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは限りなく汝のものなればなり。アーメン。

【聖書朗読】旧約聖書 詩編37編37節 (p.870)

37 「無垢であらうと努め、まっすぐに見ようとせよ。平和な人には未来がある。」

Old Testament, Psalm 37:37

37 'Mark the blameless, and behold the upright, for there is posterity for the peaceable.'

【メッセージ】 「平和な人には未来がある」 上地 武

【祈 禱】 //

【平和を祈る時】 伊波美智子

【後 奏】

## 讚美歌 21 371 番「この子どもたちが」

讚美歌で歌われる主題は様々ですが、その中の大きなものの一つに「命」、そして「子ども」の存在があります。特に社会の中で弱く小さくされていた子どもの存在をイエスは大切にしよう次のような言葉を残しています…。

「イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」

(マルコ 10：13～16)

今回紹介した讚美歌でも、「子どもたち」の存在が、未来への希望に満ちたかけがえのないものとして謳われています。しかし一方で、そのような子どもたちの輝きを奪うものとして戦いやあらし、つまり止む事のない戦争の現実にしかりと目を向けつつ、それに打ち勝つためのキーワード（平和・正義・希望・未来）を指し示しています。

大きな痛みを経験したこの沖縄。しかし、だからこそ子どもたちの輝かしい未来を求める声を広めて行きたい、この歌を共に歌う事で改めて心に刻みたいと思います。

